

平成25年度第2回鎌倉市食育推進会議 会議録

日時：平成26年1月30日（木）18時30分～19時30分

会場：鎌倉市役所第3分庁舎講堂

出席者：＜委員＞中村会長、中谷副会長、安齋委員、落合委員

杉山委員、高橋委員、牧田委員

加藤氏（坂口委員の代理）

＜職員等＞食育連絡協議会（庁内）

産業振興課長、高齢者いきいき課長、教育総務課長、

小学校代表、中学校代表

事務局（部長及び市民健康課）

佐藤健康福祉部長、大澤市民健康課長、

河合健康づくり担当係長、大隅、大竹

事務局（大澤次長）

皆さまこんばんは。

本日はお忙しい中、またお足下の悪い中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから平成25年度第2回鎌倉市食育推進会議を始めさせていただきます。

本日欠席されている委員さんにつきましては、柿沢委員、高木委員、富田委員からご欠席の連絡をいただいております。また、イトーヨーカドーさんからは、坂口委員に代わりまして加藤さんにお越しいただいておりますことをご報告させていただきたいと思っております。なお、本日の傍聴希望者はございませんのでよろしくお願いいたします。

では、会長、よろしく願いいたします。

中村会長

みなさんこんばんは。ご出席いただきありがとうございます。

事務局から会議が成立するということがご報告されましたので、この会議は正式に成立することになります。

これから、平成25年度第2回鎌倉市食育推進会議を開会いたします。

2か月前ですが、厚労省が平成25年度の国民健康栄養調査を発表しました。私は久しぶりに感動しました。日本で糖尿病が減り始めたというデータであります。これは糖尿病の発症調査を始めて、初めての出来事です。おそらく世界でも初めてだと思います。どの国も生活習慣病を減らした国というのは未だないのです。日本が初めて糖尿病を減らしたということの世界に発信したら、食育運動をやっている人々の大きな力になっているのではないかと思います。やればできるということでもあります。それからもう一つ。ある大学

のグループが25年間の追跡調査をやり、魚をたくさん食べる人たちは脳卒中が少ないという発表をしたのです。しかも心臓病も減少傾向にあるということです。25年間も追いかけた調査というのは、初めてだろうと思うのです。つまり若いころからお魚を食べ続けると、年を取って脳卒中になる率は減っていくということが科学的に立証されたということです。最近では、お魚を三枚におろせない人が多いとか、食べない人が多いとか、悪い話を枕詞にすることが多いのですが、これからこういう良い話もして、食生活を改善することは、楽しくて将来良いことが起こるのだということもお話していくことが必要なのではないかとの2つのニュースを聞いて改めて感じました。

本日は第2回の会議になりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

では、会議次第に従い、議題1「第2期鎌倉食育推進計画の行動計画と平成25年度上半期の実績報告について」に移らせていただきます。事務局から説明をお願いします。

事務局（河合係長）

では議題に入る前に資料の確認をさせていただきます。事前にお送りさせていただいておりました「第2期鎌倉食育推進計画行動計画」ですがこちらは皆様お持ちいただきましたでしょうか。それ以外は机のほうにお配りしておりますが別紙「平成25年度10月以降の取り組み実績について」【資料1】食育アンケート集計、【資料2】第2期鎌倉食育推進計画の概要版はお手元にありますでしょうか。

それでは、議題1「第2期鎌倉食育推進計画の行動計画と平成25年度上半期の実績報告について」の説明をさせていただきます。「第2期鎌倉食育推進計画行動計画」をご覧ください。

平成25年7月11日（木）に開催いたしました、第1回鎌倉市食育推進会議の中で、第2期行動計画の考え方についてご了承いただいた後、行政だけでなく、事業者の方などが実施された食育に関連した事業について情報提供いただきまして、行動計画の中に掲載させていただいております。また、実施事業の中では、写真の提供をいただいたものを掲載し、よりわかりやすく周知できるようにいたしました。

行政以外の事業者等の皆様が実施されている食育に関連した事業について、新しく掲載しておりますので、いくつかご紹介いたします。

行動計画の3ページをご覧ください。

「地域で「野菜パワー」をテーマに実施したペープサートの掲示」についてですが、鎌倉市では、6月の食育月間に合わせて、平成25年6月11日（火）から6月16日（日）の期間、鎌倉駅地下道ギャラリーで鎌倉市の食育活動の紹介の掲示を行い、鎌倉市の第2期鎌倉食育推進計画の紹介、鎌倉及び腰越

漁業協同組合が実施している朝市の様子の紹介、鎌倉女子大のペープサートの実物展示、岩瀬保育園の子ども達の描いた夏野菜の絵の掲示を行ったことを記載しています。

次に5ページをご覧ください。

下段には、鎌倉女子大で刊行された「鎌倉女子大学の季節のお弁当レシピ」について情報提供いただき、掲載しています。

次に8ページをご覧ください。

鎌倉酒販協同組合の呼びかけにより、鎌倉商工会議所、鎌倉市観光協会、さがみ農協鎌倉地区及び鎌倉市で構成された「鎌倉酒類開発協議会」と「鎌倉酒販協同組合」が主体となって開発、販売された「鎌倉芋焼酎」と「鎌倉梅ワイン」について掲載しています。

「鎌倉芋焼酎」は、鎌倉市関谷の畑で収穫した「紅あずま」という種類のさつま芋が使用されています。また、「鎌倉梅ワイン」は、建長寺、長谷寺、鎌倉の農家さんや一般家庭から収穫した梅が使用されています。

8ページ下段から9ページにかけては、鎌倉女子大学で実施された事業について情報提供をいただきまして、掲載しています。

事業者の方との共同レシピ開発や共同商品開発、福祉まつりでの「鎌倉焼売」の調理・販売など幅広い活動の様子が分かる内容となっています。

次に、11ページをご覧ください。上段に「食に係る放射性物質濃度測定の実施」について掲載しています。こちらは、保育課、こどもみらい課、発達支援室、公立小学校及び産業振興課で実施している、給食食材等や農産物の放射性物質濃度測定の実績について掲載しております。

以上が、新規で掲載した事業です。

少し戻りまして、7ページをお開き下さい。7ページ下段の「親子農業体験の開催」と8ページ上段の「秋の収穫まつりの実施」についてご説明致します。

こちらは、第1期の行動計画では「実施主体」を行政の担当課である「産業振興課」としていましたが、今回から、実態に即した実施主体として「親子農業体験」はJAさがみ鎌倉市青壮年部、「秋の収穫まつり」は秋の収穫まつり実行委員会として記載しています。(秋の収穫まつり実行委員会は、JAさがみ、鎌倉・腰越漁業協同組合、鎌倉市で構成されています。)

また、今まで実施していた事業についても、写真を掲載することでより具体的にイメージしていただけるようにしたものがあります。

行動計画の2ページをご覧ください。

こちらには、お母さんが赤ちゃんをおんぶしながら、離乳食づくりを体験する「おんぶで離乳食教室」の写真を掲載しています。10倍がゆと蒸したにんじんを裏ごしをしたり、蒸したかぼちゃをスプーンでつぶしたりしているところです。日本の食の味を大切にしてほしいということから、だしの味の体験もできるように、口の発達に合わせた固さの調節にはこんぶだしを使用しています。

続きまして5ページをご覧ください。市民相談課が実施しました、多種の作物を栽培する鎌倉の畑を親子で見学する「鎌倉の七色畑を見に行こう」の写真を掲載しております。

また、6・7ページには、公立保育園で実施しました「野菜栽培」と「調理保育」の様子を掲載しています。「野菜栽培」は、大根の収穫と収穫した大根を洗っている様子です。7ページの右側の写真は、スイートポテトづくりの調理実習で、さつま芋に牛乳を入れているところです。左側の写真は、サンドイッチづくりの調理実習で、キュウリを切っているところです。

今ご紹介いたしましたところは公立保育園での取り組みですが、本日ご欠席の富田委員から、公立保育園だけでなく鎌倉市の計画として現在では民間保育園数のほうが多いということがありますので、民間保育園がどのようにかわり、推進計画を取り入れていくのが大切になっていくのではないかとご意見をいただいております。今後は私立保育園ですとか幼稚園協会などのご協力を得ながら鎌倉市の食育計画を推進していければと考えております。

それでは別紙「平成25年度10月以降の取り組み実績について」をご覧ください。

1つ目の「第3回“四季を感じる 鎌倉料理コンテスト”」についてですが、平成25年10月6日（日）に鎌倉商工会議所が開催したものです。

こちらは、鎌倉産の農水産物を3種以上使用し、鎌倉の魅力、鎌倉らしさを食文化の面から創出し、地産地消の促進を図るとともに、鎌倉の地域活性化につなげることを目的としています。

第3回からは、プロ部門とアマチュア部門に分けて募集され、最終審査は円覚寺の厨房を会場にして行われました。

鎌倉商工公議所のホームページをご覧くださいと、入賞した料理の写真をクリックすることでレシピをご覧くださいこともできますので、ぜひご覧になってみてください。

2番目の「姉妹都市物産展」についてですが、平成25年10月11日（金）から10月12日（土）に観光商工課が開催したものです。

こちらは、姉妹都市交流の一環として、山口県萩市、長野県上田市及び栃木県足利市の特産品と本市の農産品等を一堂に集めた即売会がおこなわれました。鎌倉の農家の方が野菜を販売し、午前中には売り切れてしまうほど盛況だったとのことでした。

3番目の「鎌倉の漁師さんに聞いてみよう！鎌倉でとれる魚とおろし方講座～地魚丼を作って試食してみよう～」についてですが、平成25年10月20日（日）に市民健康課が開催しました。

こちらは、鎌倉漁業協同組合漁業研究会の漁師の皆さんから、鎌倉で水揚げされる魚や漁業等についての講話を実施するとともに、実際に当日水揚げされた地魚を使用して、魚のおろし方を親子で体験し、地魚丼として試食するという内容で実施しました。

小学4年生から6年生と保護者の方を対象とした講座で、6組12人の参加でしたが、2組に一人ずつ漁師さんがついて丁寧に教えてくださり、子ども一人につき、ソウダカツオ3匹、カワハギ2匹くらいを卸しました。最初は魚を触るのもおっかなびっくりな様子でしたが、最後は一人で上手に卸し、カワハギのお刺身も肝醬油をつけておいしそうに試食していました。

4番目の「秋色のお弁当をつくろう」についてですが、平成25年11月2日（土）に青少年課が開催したものです。

こちらは、子ども達が空のお弁当箱を持参し、鎌倉青少年会館でお弁当作りを体験し、持ってきた自分のお弁当箱に作ったおかずを詰めて、みんなで一緒に食べるというものでした。

5番目は「食育フェスタ」についてですが、平成25年11月16日（土）に社会福祉法人つきかげ会岩瀬保育園が開催したものです。

こちらは、園児と保護者だけでなく地域住民も参加する食育にスポットを当てたイベントとなっています。自分の体を知るブースとして委託業者による骨密度測定を実施し、結果説明と生活習慣病予防についての助言を行うとともに、骨密度測定以外に、市民健康課主催で食品表示に関するアンケートと食育に関するポスターやチラシを掲示・配付するブースや乳がん自己触診法の体験や、健康に関するポスターやチラシを掲示・配付するブースを設け、保護者や地域住民の方に『食』と『健康』について考えてもらうきっかけ作りを行いました。

最後に「食育交流会」についてですが、平成25年12月7日（土）に市民

健康課が開催したものです。

こちらは、以前、中村会長からお話がありました、神奈川県「食育応援団」に登録されている「神奈川・食育をすすめる会」会員である相鉄ローゼン鎌倉深沢店において開催したもので、会場スペースの関係で実施内容は限られたものでしたが、相鉄ローゼンさんから提供いただいた旬の食材を使用したレシピの配布や、骨密度測定・体組成測定・乳がんしこり体験の無料実施、また JA さがみから提供いただいた、鎌倉やさいの案内の掲載された、農業だより「ふれあい」の配布や鎌倉漁業協同組合から提供いただいた朝市の案内の配布を行いました。こちらの参加者は骨密度測定等をされた方の人数でいきますと 84 名でした。

これら 10 月から 3 月に実施したのも併せて年間実績として取りまとめた後に、平成 25 年度分の実績としてホームページへの掲載を予定しております。

続きまして、資料 1 の食育アンケート集計と行動計画を合わせてご覧ください。

第 2 期鎌倉食育推進計画の策定に伴いまして、行動計画指標も国に合わせて策定しました。この行動計画に対して、目標値をどのくらい達成しているか確認するために、市民健康課で実施した食育講座や食育交流会、母子保健のこんにちはあかちゃん教室やおんぶで離乳食教室、成人保健の健康づくり応援団、健康教育等の開催時に「食育アンケート」を実施いたしました。

今回は、平成 25 年 9 月 20 日から 12 月 24 日までに実施したアンケートを集計したものをお配りしています。

回答者数は 468 件、年齢層や男女比の偏りがありますが、行動計画の指標に照らし合わせた市民の皆様の方々の今の状況について把握できる機会と考えています。

それでは、食育アンケートの 1 ページをご覧ください。食育アンケートの【質問 2 朝ごはんを食べていますか】では、全体の 92.1%の方が毎日朝ごはんを食べると回答しており、概ね目標値に近づいていると思われます。

「あまり食べない」、「いつも食べない」方は合わせて 17 人で、年代別の内訳は、20 代の男性 4 人、女性 2 人が一番多く、やはり 20 代男性の朝食の欠食が多いようです。

次に、【質問 3 栄養バランスを考えて食事をとっていますか】は、「はい」と「どちらかといえばはい」の方が 89.1%で、目標値の「80%以上に近づける」を達成しています。

「どちらかといえばいいえ」「いいえ」の方は年代別にみると 30 代 14 人が一番多く、このうち女性は 13 人、性別不明が 1 人となっています。

次に【質問4 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の予防や改善のための適切な食事、運動等を継続して行っていますか】では、「はい」「どちらかといえばはい」の方が65.6%で、目標値の「50%以上」を達成しています。

次に【質問5 よく噛んで味わって食べるなどの食べ方に関心がありますか】では、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」方は84.2%で、目標値の80%以上を達成しています。

「どちらかといえば関心がない」「関心がない」方は49人で、年代別では40代の15人が一番多く、このうち男性5人、女性7人となっています。

次に、【質問6 朝食又は夕食を家族と一緒に食べていますか】では、47.4%の方が週平均10回以上一緒に食べていると回答しており、目標値の週平均10回以上を達成しています。

「一人で食べる」と回答した35人のうち、70代の15人が一番多くなっていますが、独居の方を除いていないためこのような結果が出たのではないかと考えます。

次に、3ページをご覧ください。【質問7 農業や漁業の体験をしたことがありますか（例えば、地引網や野菜の収穫体験など）】では62%の方が「ある」と回答しており、目標値の30%以上を達成しています。

「ない」と回答した方は147人で、年代別では40代38人、70代34人、30代33人が多い年代となっています。

次に、【質問8 地元産（県内産を含む）食材を使用していますか】では、「使用している」「どちらかといえば使用している」方は66.7%で、目標値の30%を達成しています。「あまり使用しない」「使用しない」方は26.3%ですが、「自家菜園でほとんどまかなっている」というご意見も頂いています。

次に、【質問9 消費期限や賞味期限などの食品表示や、食中毒の予防などの食品の安全性について関心がありますか】では、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」は89.7%で、食品表示や食品の安全性について関心の高さを感じます。

このようなアンケートを26年度以降も実施し、年度ごとにできるだけ行動計画の指標に照らし合わせた現状について把握し、今後の食育推進に向けた事業展開に生かしていきたいと考えています。

次に、資料2の第2期鎌倉食育推進計画の概要版をご覧ください。

A3二つ折り両面印刷の形で概要版を作成しました。

内容は、推進計画書から抜粋して作成しておりますが、概要版の最終面には、鎌倉市のほか、内閣府、農林水産省、厚生労働省、神奈川県と各行政機関で食育について発信している情報のホームページについて掲載しております。食育講座等様々な機会に配布し、食育について周知を図るために活用していきたいと考えております。

以上で議題1の説明を終わります。

中村会長

ありがとうございました。

ご質問はございますか。

牧田委員

食育アンケートの集計結果についてですが、とても良い結果が出ているなと感じたのですが、最初にどこでとられたかということで食育関係のイベントのみになっていると伺いました。正直なところ、食育関係のイベントに来てくれる方だから、女性が多くて男性が少ないのだなということもあると思いますし、もともと食育とか食に関心がある方々がそういうイベントに来るわけですから、朝ごはんを食べているとか、栄養バランスを考えているとか、そういうことは関心のある方に振れる可能性が高いような気がします。やはりもう少し一般的な市民の皆さんの意識を調査するためには、例えば市役所のホールにアンケート用紙を置くなどの努力をなさった方が、より正確な数値が出るのではないかと思います。これは本当に今まで食育推進計画を積み重ねてきた結果で、こういう数値が出る一面もちろんあると思いますが、実態としてはこんなに男女比の差があるわけではないですし、もう少し広くアンケートを取られた方がいいかなと感じました。以上です。

中村会長

はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

大澤次長

はい、おっしゃるとおりでございます。牧田委員のおっしゃるとおり、今回のこのアンケートは初めての試みということもございまして、我々の色々な事業に来て下さった方を対象にやらせていただきました。そうしたことから、好意的なといいますか横並びといいますか、そのようになることは当然

と我々も判断をしております。今後、大規模に行うことはなかなかできないものですから、今おっしゃっていただいたように、色々な機会や場面、あるいはインターネット等を使ったり、市全体の e-モニター制度とか色々ございますので、そういった場面を使って食育の状況の調査をしていきたいと思えます。

中村会長

はい、ありがとうございます。他にご質問ありますか。どうぞ。

高橋委員

先ほど富田委員からのご意見が紹介された中にもあったのですが、ここに「公立保育園」「公立小学校」とか本当に「公立」とたくさん書かれていて、実績としては平成 25 年の 4 月から 9 月ということで、もう少し私立とか民間の保育園でも「こんなことをやっているよ」というのを聞ける時間があつたのではないかととても感じていて、ここに「公立保育園では」という書き方で実績として最終的に掲載されていることがとても悲しいなというか、民間でもかなり取り組んでいる保育園というのはいっぱいあると思うので、もう少ししっかりと実績を調べて掲載してほしかったなというのを感じました。もう一つ、行動計画の 8 ページ、9 ページの鎌倉女子大学さんと他のところの色々な取り組みのところで、一番最初の山崎パンとの共同ということで「紫いもあん」とあるのですが、鎌倉のものもあると思うのですが、「地場のもの」という表記がないと、鎌倉産の紫いもがあるというのを市内の人でもそんなに知らなくて、「紫いも」というと「沖縄産の紫いもかな」と捉えてしまうところもあるかと思うので、地場のものを実際に使っているのであればしっかりと表記した方が、これを手にした人がわかりやすいのかなと感じました。

中村会長

はい、ありがとうございました。公立についてはどうですか。

大澤次長

おっしゃるとおり、リサーチが完璧にできていないのは事実なのですが、保育園・幼稚園、また高校生、学校でいうと高校、その方面がなかなか対応しきれてないので、そこを反省点としまして今後役に立てていきたいと感じております。

ここに表記する形も、例えば紫いもの話も「鎌倉産の」とかアピールの仕方をもっとうまくやっていく必要があるなと感じております。ありがとうございます。

中村会長

鎌倉に紫いものは昔からあるのですか。

高橋委員

いや、ないです。最近だと思います。

中村会長

沖縄からですかね。

安齋委員

沖縄かはわかりませんが、種芋を仕入れてくるか、苗を仕入れてくるかではできると思います。作っている方もいらっしゃるのでは。もともとからはないです。

中村会長

鹿児島からですかね。

安齋委員

多分そうだと思いますね。

中村会長

話を聞くと、最初は気持ち悪くて売れなかったみたいですよ。それが何かでブームができて生産が間に合わないという話もあるみたいですね。

中谷委員

ちなみに鎌倉女子大学のこの「紫いもあん」なのですから、鎌倉をイメージした商品開発ということでご依頼がありまして、紫いもというのが出てきました。ただ、やはりかなりの数を実際に作っていますので、鎌倉の地場産のものを使っての製品ではありません。

中村会長

鎌倉のイメージは紫いもののでしょうか。

中谷委員

そこはちょっと私たちも「ん？」と思うのですが、「鎌倉をイメージした紫いも」というのが枕詞にはついています。紫いものコロッケとか小町通りに売っています。

中村会長

この芋焼酎は紫いもとは違いますよね。

安齋委員

はい。「紅あずま」という普通のさつまいもですね。

中村会長

紫いもで焼酎はできないのでしょうか。

安齋委員

作ったことがないのでわかりませんが、できなくはないと思いますけど、どうなのでしょう。

中谷委員

紫いもの焼酎はあるのでしょうか。

加藤氏

ありますね。他の産地ですけども。紫いも焼酎はありますね。

中村会長

鎌倉ではまだできていないということでしょうか。

安齋委員

はい、そうですね。まだ絶対量というか作っている方が少ないのですが、そういう要望があれば生産者も頑張ってみようとなりますかね。どうなのでしょう。

中村会長

他にありますか。しかし色々なことをなさっているのですね。感心しました。この七色畑とは何ですか。

安齋委員

七色畑とは、鎌倉は直売されている方が多いので、少量多品目という形で、一つの畑で極端なことをいうと三浦半島にいけば大根とキャベツしかないという状態ではなくて、一つの畑に大根があったり、キャベツがあったり、白菜があったり色々な野菜が入っていますよということで「七色畑」と言われています。

中村会長

そうですか。他に何かご質問ありますか。

杉山委員

単純な好奇心で申し訳ないのですが、10ページの学校のところなのですが、牛乳パックのリサイクルのところ「牛乳アレルギーの児童に配慮して実施した」というのは具体的にはどういうご配慮がされているのでしょうか。

大澤次長

私どもが知っている範囲内でお答えさせていただきますけど、鎌倉は紙パックの牛乳を使用しています。一応洗ってリサイクルに回しておりますけれども、アレルギーを持っているお子さんのそばではこの作業をしないとか、そういった対応ですね、非常にアレルギー問題は大きいかと思しますので、そういうのを十分配慮したうえでやっていますよということで記載させていただいていると思います。

杉山委員

現実にそこでアレルギーを起こさないように配慮したということですね。

大澤次長

はい、そうですね。本来ならば全員一緒にやるところを、牛乳がはねてしまうこともありますから、そういうことにも十分配慮をしながらやっていますよということだと思います。

落合委員

2ページの家庭科の評価における食育のところ「小学校は「ご飯と味噌汁を中心とした実習をした」これはもうご飯を炊いてというのは嬉しいのですが、小学校6年間でどのくらいこういう実習があるのか、中学でもご飯を炊いて味噌汁を作るというのは、子どもたちが小さいころにそれが当然なのだということ覚えてもらえば一番いいと思うのですが、それをどのくらいの回数でやっているかわかりますか。

大澤次長

回数までは私どものほうではお答えできません。

高橋委員

ちなみにわが子は小学校に行っているのですが、1回です。ご飯と味噌汁を作る実習は1回だけですが、ここには記載されていないのですが、無料

の食育体験みたいなものを紹介するちらしが学校に来るようで、先日子供が通う学校ではラーメン屋さんに来て、前日から体育館で準備をして、小学6年生がラーメンと餃子を作るというものを実施してみたりとか、そういう別のラインから実習に入ったり、家庭科だけだと補えない部分を色々な体験を先生方が考えてくれています。

中村会長

なんでラーメン屋さんなのだろう。

高橋委員

ラーメン屋さん自身も子ども達に色々な経験をさせてあげたいというのと、社員さんたちの意気込みとか、想いとか、食べ物はこちらなのだよというお話も含めながら一緒に作ったりしていたみたいです。

落合委員

ラーメン屋さんのご厚意はありがたいですけど、なるべく小さいうちからご飯を食べて「ご飯が主食なのだよ」ということをいろんな形で身に付けてもらいたいなと思いますね。

中村会長

ご飯給食は何回くらいあるのですか。

大澤次長

3回程度です。週5日にすると、他にパンが1回、麺が1回程度の割合だと思います。

中村会長

それはすばらしいね。

高橋委員

メニュー的には和食が多いかなという感じですが、新しい献立もあるのですが、実際見たり聞いたりすると和食に近いような感じがします。

中村会長

ご飯給食を普及しようという文科省で検討会があったのですが、以前、神奈川県は日本で一番少なかったのです。今はだいぶ良くなったのですね。

高橋委員

しらすがせっかく獲れる地域なのに、一回も給食でしらすを見たことはないので、地元の魚を使った料理を出してほしいというのは親として思う部分です。

食育の一つとしても感じますね。

中村会長

他にございませんか。

牧田委員

今、日本の食はご飯だというお話になりましたけども、食育推進計画の基本施策の中に日本型食生活の推進というのが入っているわけで、それに関して「食をとおした健康づくり」の中の基本施策の中に日本型食生活の推進というのが入ってくるのですけども、どちらかというと「食をとおした人づくり」のほうに鎌倉の伝統食による献立の作成というような、日本型食生活の推進の具体的なものが何か入るといいのではないかと思うのです。きっちり分けられるものでもないので、それがけんちん汁とか日本の伝統食とか鎌倉の伝統食とか「食をとおした人づくり」に入るのか、「食をとおした健康づくり」に入るのかというのは両方にかかるところもあると思うのですが、和食が世界遺産に登録されて、最初に会長がおっしゃられたように、魚を食べるとか、和食回帰で明らかに健康レベルは上がっているという実績が出ているわけですから、その辺のところを色濃く出せるようにしたら良いかなと感じました。

中村会長

けんちん汁というのは鎌倉からできたのですか。

大澤次長

建長寺です。

中村会長

そうなのですね。建長寺の汁という意味なのですね。

牧田委員

禅寺での精進料理がルーツです。

落合委員

建長寺のお坊さんがお豆腐を落としてしまって、それを利用できないかということが始まりとも言われています。

牧田委員

そういう説もありますよね。

中村会長

じゃあ和食ブームに乗ってけんちん汁を普及しましょうね。

よく伝統的な食事というのは何年までさかのぼるのか、という質問が出るのですよね。和食というのはいつ形成されたのかという話もあって、あいまいなところもあるのです。室町の頃なのではないかとも言われますね。

他になれば議題（２）の「鎌倉市食育推進会議委員の任期満了について」です。事務局から説明をお願いします。

事務局（大澤次長）

平成 26 年 3 月 31 日をもちまして、食育推進会議委員の任期が終了となります。長い間ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

特にこの 2 年間につきましては第 2 期食育推進計画の策定の時期でございまして、様々な角度からご意見をいただきましてありがとうございました。

今後のことですが、中村会長と中谷副会長には、学識経験者ということで会長、副会長として是非、継続してお願いしたいと考えておりました、改めてご相談申し上げたいと思います。

また、各団体等から推薦していただいた委員のみなさまにつきましては、再度、各団体の方に推薦依頼をさせていただきたいと思っておりますので、またお声がかかったらぜひお引き受けくださるとありがたいと思っております。

さらに、市民委員さんにつきましては、2 月 15 日号の広報で若干名の公募をさせていただきたいと思っております。3 月 6 日まで募集ということで 2 月 15 日号の広報に掲載いたしますので、その際にもう一度やってみようと思うかたがいらっしやいましたら、ぜひ応募していただけたらなと思っております。

いずれにいたしましても、4 月 1 日から新しい委員さんでこの会を再開させていただきたいと思っております。おそらく 2 年間というよりも、平成 20 年度にできました第 1 期の計画の地点から様々なご協力をいただいていたと思っております。本当に長い間ありがとうございました。今後とも引き続きまして影に日向にご意見いただけましたらありがたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からの説明は以上でございます。

中村会長

ありがとうございました。みなさんご意見ございますか。まだ発言されていない坂口委員の代理の方、何かありますか。

加藤氏

加藤と申します。食育に関しましては手前どものほうで一度イベントをやらせていただいたのですが、非常に好評でございまして、骨密度測定なんかは大変関心が高いですし、安心安全の問題に関しても消費者にとっては関心度が高い部分でありますので、制約はあるのですが、市の食育をきっかけにイベント的なものでまた機会があるときはお声掛けしていただきたいと思っております。

中村会長

はい。あらためて、委員の皆様には、長い間ご協力いただきましてありがとうございました。

これまでの任期の中で、委員の皆様が感じられたと思うのですが、鎌倉の食育についてこれからもご支援の程よろしくお願ひしたいと思っております。それでは、中谷副会長から何かございますか。

中谷副会長

私も今回で2期目が終了したわけですが、非常に時が経つにしたがつて成果が出てきているのかなと思ひました。特に今回民間の活動というのが行動計画に出てきておまして、ご依頼を受けまして、大学の方のものをまとめさせていただきましても、大学としても鎌倉の食育活動に少しは貢献できているのかなと感じました。まだ成果としては出てきていないのですが、井上蒲鉾店さんと食品学の研究室のほうで商品開発をされているようですので、よろしくお願ひします。

牧田委員

魚と鎌倉でとれたアカモクとしらすを使ってというのがテーマなのです。

中谷副会長

もう少ししたら、それも成果として出てくるのではないかなと思ひます。

中村会長

残念ながら日本人の魚の消費量は減り始めているのですよね。2、3年前から、お魚の消費量とお肉の消費量が逆転してしまっているのです。これも放置しておくとは良くないですね。

では長いことありがとうございました。それでは、これで推進会議を閉会いたします。